

5-1. 平成 20 年度地域環境啓発センターの事業内容

地域環境啓発センター長 坂田昌弘

当センターでは、地域環境に関わる諸問題について、県民に対して情報提供と啓発活動を行うとともに、学校、各種団体等による地域の環境教育・啓発活動を支援し、公的機関や民間団体との環境パートナーシップを構築することを目的としている。平成 20 年度に実施した主要な事業を以下に示す。

また、当センターが主催した 4 事業については、5-2 ～ 5-5 にそれぞれの概要を紹介する。

■ 主催事業

- 7 月 26 日(土) 夏休み親子環境教室 (共催:静岡新聞社・静岡放送)
- 8 月 7 日(木)～8 日(金) サマースクール 2008
- 11 月 12 日(水)・19 日(水)・26 日(水)・12 月 3 日(水) 環境科学講座(全 4 回)
(共催:静岡県県民部環境局地球環境室)
会場: B-nest 静岡市産学交流センター
- 1 月 10 日(土)^{注)} 静岡環境フォーラム 21 (主催: 環境科学研究所・静岡県環境衛生科学研究所・静岡県工業技術研究所、後援:静岡新聞社・静岡放送)
会場: B-nest 静岡市産学交流センター

■ 共催事業

- 8 月 9 日(土)～10 日(日) 静岡かがく特捜隊 夏まつり08 地球発見(主催:静岡新聞社・静岡放送)
会場: 小笠山総合運動公園(エコパスタジアム)
- 8 月 15 日(金)～16 日(土) サイエンスフェスティバル in る・く・る 2008
(青少年のための科学の祭典第 12 回静岡大会)(主催:青少年のための科学の祭典静岡大会事務局)
会場: 静岡科学館る・く・る

■ 環境体験学習開催・講師派遣

- スーパー・サイエンス・ハイスクール事業の支援(静岡北高校)
- サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト支援(帝京高校)
- 講師派遣

注) 本事業は 2009 年 1 月 10 日に開催され、本年報の期間外であるが、本年報において記載することとした。

5-2. 夏休み親子環境教室

担当: 伊吹裕子, 谷 幸則

将来を担う子供たちに幼少期からの環境問題に対する意識を有してもらうこと、そして子供たちを指導する立場にある父兄にも子供たちの将来を環境の側面から考えてもらう目的で、今年度で 5 回目となる夏休み親子環境教室を 7 月 26 日(土)9:30～16:00 に開催した。昨年度と同様、静岡新聞社・静岡放送が実施している「静岡かがく特捜隊」と

タイアップして実施した。

3年生から6年生までの小学生と保護者104人(子供60名)が参加し、「植物の二酸化炭素吸収をはかってみよう」「バイオエタノールについて学ぼう」「牛乳パックをリサイクル」「ペットボトル水の測定に挑戦」の4つのテーマに沿って実験を体験した。また、最後に、ブース形式で自由に実験を楽しむ企画を試みた。例年好評の本教室であるが、今年度も非常に好評であり、年に何回もやって欲しい、子供の科学に対する意識が変わったなど多くの意見が寄せられた。

5-3. サマースクール 2008

担当： 雨谷敬史、榊原啓之

サマースクールは、大学生・高校生・一般の方を対象に、大学にある設備等を使用して、実際に大学で行っている環境研究の一端に触れていただくという企画である。本年度は、2008年8月7～8日に、以下の10課題で開校した。

- ① シックハウスの原因の一つ、アルデヒド濃度を分析してみよう
- ② 佐鳴湖底泥中の重金属を分析してみようーICP/AESによる分析ー
- ③ 活性汚泥法による汚水の浄化実験
- ④ プラスチックの分解とリサイクル
- ⑤ 有機リン農薬の微量分析を体験してみよう
- ⑥ 海と生物と地球環境
- ⑦ 身近な微生物 ～環境中の微生物採取と拭き取り検査～
- ⑧ 食品の活性酸素消去能の測定
- ⑨ 腸管の生理実験
- ⑩ 尿の成分を測定してみよう

昨年度から高校生を対象に加え、県内中部地区の高校に案内状を送付したこともあり、本年度は32名の参加者を迎えて開校した。

5-4. 環境科学講座

担当： 谷 晃、岩村 武、新田見知愛

平成16年度より一般の方を対象に「環境科学講座」を開講している。本年度で5年目を迎え、静岡県県民部環境局地球環境室との共催で、「生体・生物への環境影響」をテーマに、下記の4講座を開講した。今回初めて、環境科学研究所の教員に加え静岡県環境衛生科学研究所の環境科学スタッフが講師として加わった。

本講座は全て、B-nest(ビネスト)・静岡市産学交流センター6階プレゼンテーションルーム(ペガサート6階、静岡市葵区御幸町3番地の21)で午後7時から8時30分まで行った。参加者は延べ201名であった。講演終了後、参加者から講師への多数の質問が寄せられ、活発な議論が展開された。

講演終了後のアンケートの結果によれば、全ての講演で90%以上の参加者が、講演内容に興味を持ち、スライドも見やすかったと答えた。前年度の参加者の指摘から、スライド資料をカラーで印刷し、より見やすくしたことも好評であった。講師の説明の分かりやすさについては、90%以上の参加者が分かりやすかったと答えた講演がある一方で、その評価が70%程度の講演もあり、講師のさらなる工夫が必要なが示された。参加者の意見としては、来年度も